

「現場第一」をモットーに

山形商工会議所議員

今泉 直行



1990(平成2)年、商工中金に入社、この4月に山形に赴任しました。これまでに、さまざまな方と出会い、貴重な体験をさせていただきました。この場を借りてご挨拶させていただきます。

振り出しは浜松支店でした。5月の連休に、遠州灘を臨む空に祝い風が一斉に舞い上がります。ところがそれは、とてものだかななどと言えるものではなく、風糸を絡ませる「喧嘩風」。23歳の私はお取引先のお手伝い。「走れ」「行け」の号令の下、汗と埃にまみれながら糸を握り駆けずり回りました。でも上司はビール片手に得意先と上機嫌。「GWの真ただ中に何で」と恨めしく思いましたが、風が取り持つ縁で得意先とスムーズに話ができる間柄となりました。

浜松の後、東京に転勤し物流業界を担当させていただいたのですが、そこでディーゼル排ガス規制問題を目の当たりにしました。当時物流業者は「トラックから排出される排気ガスが空気を汚す。

よって、物流業界はこれに対応する責務がある」と世間から盛んに言われ、業界を挙げて環境対策に取り組む必要に迫られていました。最後はトラックメーカーの協力もあり環境に配慮した排気ガス浄化フィルターが開発されたのですが、困難に一丸となって立ち向かう業界の方々の努力は今も鮮明に思い起こされます。そこで6年。

今度は一転して古都・京都支店勤務。あまり知られていないと思うのですが、東山の麓の泉涌寺(せんにゅうじ)が印象に残っています。当山は皇室の菩提寺で(と地元の方から聞きました)、歴代天皇の陵墓があり「御寺(みでら)」と呼ばれています。また通勤途中には、悲運の死を遂げた最上義光公の姫君駒姫の菩提寺である瑞泉寺がありました。こうした由緒ある旧跡が、さりげなく日常に溶け込んでいました。

そして大田区大森支店。ものづくりの街。その在任期間中にリーマンショックが起きました。企業によっては売上げが85%減。暗い年の瀬でした。そんな状況にあっても従業員に動揺する素振りを見せない経営者の方たちの姿勢は今でも目に焼き付いています。ある企業ではインドネシアへの先行投資が苦心の結果実を結び、リーマンショックを乗り越える原動力となりました。幾多の困難な波を乗り越えていく経営者の真髄を見たような気がしました。

次の甲府支店では、妥協を許さないワインを造り、欧米に売り込んでいくワイナリーの社長と親しくさせていただき、世界に伍して勝負する気構えを学びました。

商工中金の設立は1936(昭和11)年、初代理事長は赤湯(現南陽市)出身の結城豊太郎氏です。以来中小企業の金融円滑化を目的とし80年近い歴史を刻んでおります。これからも私ども商工中金は県内の中小企業の皆さまを応援してまいります。引き続き、安定的な資金供給「セーフティーネット機能の発揮」を最優先で取り組んでまいります。また、最近は中小企業の皆さまがアジアを中心とした海外展開にも力を入れておられることから、現地の情報提供と金融サービスを併せて行ってまいります。そしてこれらを通じ、現場第一をモットーに少しでも山形の皆さまのお役に立てるよう頑張りたいと思っております。

(株)商工組合中央金庫山形支店長